

## 注意

前年度の入試情報となります。  
新しい情報は随時公開いたします。

You, Unlimited

龍谷大学大学院

社会学研究科

Graduate School of

Sociology

2024



RYUKOKU  
UNIVERSITY



# 社会学研究科

Graduate school of Sociology

※社会学研究科は、2025年4月に深草キャンパスへ移転します。  
2025年4月からは、深草キャンパスへ通学することになります。

## 人間、地域を共生と協働で切り拓く研究

社会学研究科は、社会学専攻社会学コース・同専攻ジャーナリズムコースおよび社会福祉学専攻から構成され、各専門の総合的教育を通して、社会の要請に応えられる見識ある研究者・教育者・高度専門職業人の養成を目指しています。

開かれた教育研究機関として、留学生や社会人を含め多様な学生が、それぞれに適した形態の入試によって入学し、共に研究に励んでいます。学生の自由な発想と研究関心を生かし、実績ある教授陣が懇切丁寧な研究指導を行います。また、修士論文および博士論文の執筆過程における発表を通して、研究成果形成をサポートします。

学生一人一人が社会の現状に向き合うことを重視し、社会調査教育や社会福祉実践教育を推進しています。



### 高度専門職業人の養成

時代と環境の変化に伴って生じる新たな社会問題と向き合い、自ら公共的課題解決に挑んでいく人材の養成を目指しています。

### 社会人が学びやすいカリキュラムと多様な履修コース

5・6講時(17時以降)を中心に構成した昼夜開講制や土曜日開講など、社会人の方にも学びやすいカリキュラムを整え、2014年度からはセメスター制を導入しています。

### 国際化の推進と留学生へのサポート強化

多くの留学生が在籍しており、国際化に向けた歩みを着実に進めています。

## 教育理念・目的

多様な価値が錯綜する現代社会において、社会学と社会福祉学の分野が果たす役割は大きいと考えます。社会学研究科は建学の精神に基づき、専門性と実践性をバランス良く兼ね備えた高度専門職業人・研究者・教育者を養成します。

専攻	修士課程	博士後期課程
社会学専攻	複雑で多様な現代社会の諸問題を分析できる社会学的な学識と能力を有する専門社会調査士や職業ジャーナリストのような高度専門職業人及び研究者を育成することを目的とし、現実社会に対応した研究能力と幅広い実践能力をもつ人材を養成する。	高度で創造的研究を行うことのできる自立した研究者を育成することを目的とし、社会学の研究領域で価値ありと認められる研究成果を生み出す能力を有する人材を養成する。
社会福祉学専攻	現代社会における社会福祉学の専門性と実践性を兼ね備えた高度専門職業人及び研究者を育成することを目的とし、現実の社会福祉問題に直結した研究能力と幅広い実践能力をもつ人材を養成する。	社会福祉学の研究方法を身につけ、創造的で自立した研究者を育成することを目的とし、社会福祉問題の分析における高度の研究能力を有する人材を養成する。

## 研究科長のメッセージ

「建学の精神」として「浄土真宗の精神」を掲げている龍谷大学は、「真実を求め、真実に生き、真実を頭かにする」ことのできる人間を育成します。

社会学研究科では、社会学・社会福祉学の知見を活用して、人間模様が織りなす複雑な社会に目を向けます。社会の「現場」を重視し、実践や調査によって社会問題の現実を把握するとともに、これまでの研究で蓄積されている先行研究との比較検討によって、社会問題の因果関係などを追求め、常に「真実」に迫ろうとしています。

現代社会は地球規模の人口問題や貧困、あるいは紛争などの社会問題が山積みしています。社会問題を研究し解決することは容易なことではなく、その因果関係を明らかにすることも、時には紛争などで事象自体の把握さえも困難なことがあります。この道のりは決して平坦なものではありません。しかし、だからこそ時間をかけて綿密に「現場」を観察し、深く検討するのです。その結果、埋もれた「真実」に近づけた時の喜びは何ものにも替えがたいものです。同時に、それは社会問題の解決という社会貢献にもつながっています。

院生たちは地道に一人で研究を行いながらも、国内外から集まった仲間と学び合い、多彩な教員たちとの討議も経て研究成果をまとめ、国内外の学術会議や学術雑誌で発表しています。その後、修士課程修了者は高度専門職業人として活躍したり、進学したりしています。また研究者や教育者として羽ばたいた博士後期課程修了者もいます。

入学後の1年目は琵琶湖に近い瀬田キャンパスで学びます。移転する2年目以降は京都の深草キャンパスになります。新しい人々との出会い、共に学び、埋もれた「真実」を希求し、「真実」に近づき、「真実」を探求し続けるような研究生活を送っていただきたいと思います。

ぜひ本冊子を熟読され本研究科への進学をご検討ください。歴史ある大津の地で研究を始めていただければ幸いです。



社会学研究科長  
栗田 修司 教授

# 実践的で多様なカリキュラム

## 社会学専攻

- 社会学コース ●ジャーナリズムコース

研究を行うには、社会学理論についての理解、外国語文献を読んで理解する語学力、研究・調査法についての知識とスキル、自分の専攻したい分野についての最先端の研究の把握、論文作成の知識とスキルが必要です。修士課程では、これらの基礎的な知識、能力、スキルを身につけることにより、社会学の研究を独力でやり遂げる力を身につけます。

※ 大学院設置基準第14条特例に基づく昼夜間開講講義を実施し、社会人入試による学生の受け入れも行っています。

## 社会福祉学専攻

複雑化している社会福祉分野に柔軟に対応できる人材を育成し、より専門的で高度な教育・研究を目指しています。社会福祉に対する関心や知識を一層深めることができるとともに、福祉現場などで活躍している人の再教育・スキルアップにも役立ちます。また、将来社会福祉の研究者・教育者を旨とする人たちの研究の基礎づくりの支援を行っています。

修士課程

	1年次	2年次	
修了要件	演習〈必修〉	8単位	修士論文
	外国語〈必修〉	4単位	
	基礎科目〈選択必修〉	2単位	
	選択科目〈選択〉	16単位	

博士後期課程

## 社会学専攻

博士後期課程では、修士課程で修得した独力で研究をやり遂げる力を研究成果に結びつけていきます。自ら研究課題を設定して、研究・調査に取り組み、成果を学会発表や学術論文として発表することを繰り返して、社会学の研究者として活躍できる力量を身につけていきます。

## 社会福祉学専攻

博士後期課程では、修士課程での研究や成果を土台に、さらに専門的な研究を展開できるよう、博士号取得に向けての指導と支援を行い、社会福祉学の研究者の養成を目指しています。

## 社会学研究科 4つのトピックス

Topics

1

### 留学生も活躍

社会学研究科では、多くの留学生が学んでいます。現在、26名(2023年4月現在)の留学生が学位取得を目指して日々努力しており、留学生ならではの研究テーマに取り組んでいます。旧満州時代の満州映画に関する研究・日本人経営の中国語新聞の研究、植民地時代の台湾の新聞に関する研究、中国の高齢者施設におけるソーシャルワーカーの調査などがあり、その独特の研究テーマ、研究成果は所属学会からも高く評価され、全国大会での発表者に選ばれています。

Topics

3

### 豊富な学びを選択

2014年度から教育体制の再編成によりカリキュラムを検討した結果、セメスター制を導入して半期毎に研究科目(講義科目)を開講することになりました。各専攻及びコースでの学生が、多くの教員の教育・研究活動の成果を学ぶ授業を選択できるように工夫しました。社会学研究科では、龍谷大学の「建学の精神」と社会学部の「現場主義」の精神を中核にした教育・研究活動を進め、社会人にも学びやすい多様な履修コースなど豊富な学びの機会を準備しています。

Topics

2

### 専門社会調査士資格が取得可能

2008年度から社会学専攻に「専門社会調査士」資格を取得できる科目を開講しています。「専門社会調査士」とは、社会調査の知識や方法を用いて社会的現実をとらえることのできる「調査の専門家」のことをいいます。「専門社会調査士」科目では、質問紙調査等の「量的調査」と面接調査・観察調査等の「質的調査」について専門的に学びます。

現在、会社や自治体における企画、広報、マーケティングなどに関わる職場では高度な社会調査能力が求められています。大学院で学んだ後、専門知識を活かして働きたい人に取得を目指していただきたい資格です。

Topics

4

### 国内外の大学、市町村、団体との包括協定の推進

2023年度も引き続き留学生の継続的な受け入れを推進しています。なお、東南アジア地域、さらには南アジア地域からの留学生受け入れを推進します。

また、国内においては社会人入学生確保、研究・実習等のフィールド確保、キャリアパス確保等の目的で市町村、法人団体との包括協定締結を推進しており、包括協定先の社会人に対して、修士課程推薦入試制度を導入し、これに合わせて修士課程1年制を実施しています。



# 社会学専攻

「現場主義」にもとづき調査を主体に多角的な理論的検討をおこなうカリキュラムが特徴です。  
社会学の研究を深めたい人だけでなく、専門社会調査士や職業ジャーナリストを目指す人にぴったりです。

## 専任教員紹介

### 2023年度 専任教員の 専門分野・主な研究テーマ

#### 名前【学位】

#### 専門分野

#### 研究テーマ

「M」は修士課程科目担当者、  
「D」は博士後期課程科目の担当者です



#### 修士論文題目例

- 日本と中国の公共広告に関する比較研究 — 新型コロナウイルスに関する公共広告を中心に —
- 反復障害 児童虐待経験とストーキング被害との関係 「女性の日常生活の安全に関する調査」を通じて

#### M・D 工藤 保則 【博士(社会学)】

文化社会学／子ども社会学  
都市文化・風俗／子どもの社会化

#### 黒田 浩一郎 【修士(文学)】

病と医療の社会学／食と食事の社会学／社会理論  
医療研究のための社会理論／先端医療／健康食品／健康至上主義／東アジアの医療システム／病をめぐる論争／食と健康をめぐる論争

#### 嶋崎 陽一 【修士(文学)】

フランス中世文学／アーサー王文学  
13世紀フランスにおける散文による物語手法の形成

#### 高岡 智子 【博士(学術)】

音楽学／ドイツ文化史  
映画音楽／文化政策とポピュラー音楽

#### 椿原 敦子 【博士(人間科学)】

文化人類学  
イランにおける「宗教」の社会的布置の変化に関する人類学的研究

#### 畑仲 哲雄 【博士(社会情報学)】

マスメディア／ジャーナリズム  
報道倫理／ジャーナリズムの規範論／地域メディア／コミュニティアニズム

#### 村澤 真保呂 【修士(人間・環境学)】

社会思想史／精神分析  
フランス社会学史／グローバル化と精神病理

#### 李 相哲 【博士(新聞学)】

ジャーナリズム史／東アジアの新聞研究  
植民地統治下の新聞研究／東アジアのマスメディアと国際報道

#### M・D 脇田 健一 【修士(社会学)】

環境社会学／地域社会学  
流域ガバナンス／地域づくり／農村研究／近代化過程における宗教観と死生観の変容

#### M 佐藤 彰男 【博士(社会学)】

都市社会学／情報社会論  
バングラデシュの都市下層を対象とした研究  
テレワークの実証的研究

#### 津島 昌弘 【M.A.】

犯罪社会学／社会統計学  
失業と犯罪／犯罪被害調査

#### 三谷 はるよ 【博士(人間科学)】

福祉社会学／計量社会学  
子ども期の不利／ソーシャル・サポート／調査票調査

#### 吉田 竜司 【修士(文学)】

集合行動論  
群集の社会的コントロール／都市祝祭の変容過程

#### 李 复屏 【博士(経済学)】

地域発展学  
地域と経済／現代中国政治経済

#### 渡辺 めぐみ 【博士(社会科学)】

ジェンダー・スタディーズ／家族社会学  
農業労働とジェンダー／グリーン・ツーリズム／家事労働

# 在学生からのメッセージ



## 大量の情報が社会を複雑化している時代に。

沈 心如(シン・シンジヨ)さん 修士課程2年次生 社会学専攻 ジャーナリズムコース

大学でジャーナリズムを学び、ラジオとテレビのニュースを専攻しました。ジャーナリズムは非常に実践的な科目で、あらゆる場面に関連して社会がどのように機能しているかを知るための窓口であり、そこがジャーナリズム研究の一番の面白さだと思います。異なった政治制度下でのジャーナリズム実践を比較したいと思い、日本の大学院に進学することを決めました。

近年、中国でもソーシャルメディアが拡大し、誰もが発信者と受け手の両方になるため、情報の生産と流通はかつてないレベルに達しています。フェイクニュースも大量に拡散、情報流通のプロセスは、事実確認の遅延やメディア統制による透明性の欠如などによって複雑化しています。大学卒業論文で、日本でもよく知られる「微博(ウェイボー)」について研究したのですが、修士論文では、さらに一歩進めて「中国におけるSNS上の世論形成のメカニズムに関する研究―フェイクニュースの伝播過程に着目して」というタイトルを仮定して進めています。

最初は日本語の文献を読み解くことがまず難題でした。研究に近道はありませんが、ジャーナリズムの研究を通じて、共感力を持ち、あらゆる少数者に寄り添い、困っている人に救いの手を差し伸べることができる人間でありたい、そう願っています。



## 研究の大切さは、諦めずに前に進むこと。

楊 揚(ヨウ・ヨウ)さん 修士課程2年次生 社会学専攻 社会学コース

大阪の相愛大学に留学して人文学部で心理学を専攻していました。アルバイトをしていた時に、いわゆる専業主婦の方に会うことがあり、日本女性の労働参加率が、中国に較べてもかなり低いことが不思議で、そこに興味を惹かれて大学院に進んで研究しようと思いました。卒論は「日本性風俗女性の身体面・生活面・心理面に関する研究」というテーマでまとめたのですが、さらに社会学の視点からジェンダーについて深めてみたいと考えたのです。

幅広い対象に取り組む社会学という学問分野で、ジェンダー研究を専門として指導していただける先生を探すのに苦労しましたが、この研究科にたどり着きました。最初はとにかく基礎的な専門知識を身につけるために、たくさんの資料を読むことが必要でした。いろいろな資料を読み、メディアの情報に触れる中で、女性の貧困問題に関心が強まり、貧困などが原因で社会から排除された女性たちが風俗の世界に追いやられるという現状、これに対し、どのような支援ができるのか、あるいは社会の仕組みを是正するのか、それを研究の中心とするようになりました。修士論文は「日本の性的商品化に関する研究」としてまとめつつありますが、テーマ上、当事者の話を直接聴くことが難しいのが悩みです。諦めずに最後まで頑張りたいと思っています。



## 社会学は社会への理解を深め、自分も高める。

高 鵬飛(コウ・ホウヒ)さん 修士課程1年次生 社会学専攻 社会学コース

社会学部では現代福祉学科を専攻していました。もともと福祉を勉強してきたのですが、ジェンダーの社会学に興味を持つようになり、「日本における女性の就業の現状と課題～育児問題を中心として～」というタイトルで卒業論文をまとめながら、さらにもっとジェンダーについて研究したいと考えるようになりました。卒論提出の4年生は進路を決定する時期でもあります。いったん就職して社会人となったらふたたび大学に戻って院生になるのは簡単ではないだろうし、中国では学歴は高いほど就職には有利ということもあるので、今の若いうちにもっと勉強しておこうと思い、大学院進学を決めました。

大学院での研究は「男性学の視点から男性の結婚観について考える」をテーマに進めるつもりです。卒論で女性の就職と育児について調べてきましたが、女性差別を研究しながら、男性も社会で不平等な扱いをされていて、男女差別は表裏一体、ということに気づいて男性学を研究しようと思いました。研究科で自由時間は増えましたが、学部のレベルと違って、きちんと研究計画を立てないと進まない緊張感があります。社会学は、社会への理解を深め、自分もより良い人間になれる学問。社会に貢献して人々の記憶に残る人間として成長したいと思っています。

# 社会福祉学専攻

社会福祉の高度専門職業人及び、研究者・教育者の育成を目的とし、人間力豊かな人材を養成します。

## 専任教員紹介

2023年度 専任教員の  
専門分野・主な研究テーマ

名前【学位】

専門分野  
研究テーマ

「M」は修士課程科目担当者、  
「D」は博士後期課程科目の担当者です



### 修士論文題目例

- 日本における女性高齢者の貧困と解決策 —ジェンダー論の視点を踏まえた年金を中心とした最低生活保障実現するために—
- 社会福祉法人の「地域における公益的な取組」の可能性 ～社会福祉法人八尾隣保館の取組事例からの考察～

### 博士論文題目例

- 患者主導型がんサロンの効果に関する実証的研究

M  
D

五十嵐 海理 【MLitt in Linguistics】

英語学

意味論・語用語

金子 龍太郎 【博士(学術)】

児童福祉学／臨床発達心理学

「抱き」を中心とする発達心理学／  
子どもの発達環境に関する実践的研究

栗田 修司 【修士(文学)】

ソーシャルワーク／メンタルヘルス

臨床ソーシャルワーク／消防職員のメンタルヘルス／  
仏教ソーシャルワーク

田中 明彦 【修士(法学)】

社会保障法／社会保障論

皆年金に関する研究／最低生活保障における  
年金と生活保護の関係／雇用と社会保障の連携

土田 美世子 【博士(人間福祉)】

児童福祉論／保育ソーシャルワーク

児童福祉分野の専門性／地域子育て支援

春名 苗 【博士(社会福祉学)】

高齢者福祉論

地域包括支援センター／高齢者虐待

M

樽井 康彦 【博士(学術)】

障害者福祉論

地域生活支援／意思決定支援

筒井 のり子 【修士(社会学)】

地域福祉論／市民活動論

地域福祉の理論と方法／災害と地域福祉／  
ボランティアコーディネーション(マネジメント)論

立田 瑞穂 【博士(教育学)】

障害福祉／特別支援教育

知的障害とQuality of life／支援／  
デンマークの福祉・教育

前川 貴史 【PhD in Linguistics】

理論言語学／英語学

英語の統語論



## 在学生からのメッセージ



### 困難に直面してもあきらめず研究を続けたい。

宮本 幸紀さん

修士課程1年次生 社会福祉学専攻

社会学部では地域コミュニティを専攻、ジャーナリズムやスポーツなどを地域コミュニティにどう活かしていくのかといった手法を学んできました。大学院への進学を考えたのは4回生になる前の春休みです。「もうちょっと勉強がしたい」という思いがあったのですが、迷う気持ちもありました。就職が2年遅くなるのでハンディキャップにならないだろうか、先に卒業していく友人たちから置いて行かれる孤独感にさいなまれないだろうか、あれこれ悩んで、ゼミの教授にも相談し、結果、最終的に「学びたい!」という欲求が不安に打ち勝ちました。

卒業論文ではストレスについての研究を行いながら、調査していくにつれ、どんどん面白さを感じました。修士課程でも継続的にこのテーマに取り組んでいきたいと思っています。ストレスの研究は多面的で深く、海外の文献が多いため翻訳して理解するのが大変なのですが、未知のことをさらに探究する楽しみがあります。大学院では授業の時間帯も変わり、少人数での集中力も必要となり、最初は慣れるまでとまどいました。しかし、理解のレベルが格段に変わる喜びは得たいものです。将来、自分の研究で社会に貢献したい、そのためには、困難にもあきらめずに行動し続けることを意識して、実りある研究生生活を送りたいと思っています。



### 社会福祉学は人の幸福感を探究する学問。

張 白璐(チョウ・ハクリク)さん

博士後期課程1年次生 社会福祉学専攻

中国の井岡山山医学部でリハビリテーション学を専攻、その時すでに大学院に進むつもりではいたのですが、進学先を決めきれず、いったん卒業して、高齢者福祉施設で理学療法士として約1年間働きました。その時に、日本の専門家が施設で指導をされている様子を見ていて、高齢者福祉をより深く勉強したいと思い、龍谷大学へ留学することにしました。博士課程への進学は、修士課程入学の時からもう決めていましたから、まったく躊躇なく進んでいます。卒業後には大学教員になりたいと考えています。

社会福祉学は「人」の研究であり、人々の生活をどのようにしてより良く、幸福感のあるものにしていくべきかを探究します。修士論文でソーシャルワーカーの方々インタビューをさせてもらった時、終末期ケアに取り組んでいる方がおいでになり、その重要性をあらためて認識させられました。博士論文では、「生老病死」や「臨終助念」といった仏教死生観にもふれながら高齢者終末期ケアを考えようと思っています。龍谷大学大学院では学費減免や奨学金の支援もあり、経済的負担はかなり軽減されます。重要なことは、克己し、困難にも諦めないこと。限りある時間を利用して、有意義で実りのある勉強ができるよう頑張っしてほしいと思います。

## 修了生からのメッセージ



### 日々の仕事も俯瞰してみるようになった。

大庭 典浩さん

2023年修士課程修了

まさか今になって大学院で勉強することになるとは思っていませんでした。福岡県立大学で社会福祉学を学んで、卒業後、馴染み深い大阪に戻って社会福祉法人に就職。すでに20年を超え、毎日仕事に追われていましたから、再び大学で学ぶと想像さえすることはなかったのです。

私の所属する法人を含め、大阪府下中心に近畿一円九つの社会福祉法人が連携して、勉強会などを開いている「波竹の会」という組織があるのですが、2020年に、龍谷大学の社会学部および社会学研究科と、この波竹の会との間で「教育研究協力に関する包括協定」が結ばれました。その一環として社会人大学院生の受け入れ事業もあって、行ってみたいかと声をかけられ、思いもよらない貴重な体験のきっかけを得ることになりました。

「社会福祉法人の地域における公益的な取り組みの可能性」とした修士論文は、目の前のことに日々対応していくのが仕事だとすると、今までを振り返りながら、これから先を展望するという研究になったと思います。大学院で学んだことで自分の仕事や立ち位置を俯瞰してみるようになり、視野が広がり、ものすごく刺激になりました。研究経験をもとに、これから先、連携協定をさらに活かせるような、現役の学生さんたちとの関係づくりもしていければと考えています。

## 龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、  
将来の予測が難しい時代となっています。  
いま必要なことは、「学び」を深めること。  
「つながり」に目覚めること。  
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。  
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。  
それが、私たちが大切にしている  
「自省利他」であり、「まごころ」です。  
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、  
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、  
より良い社会を構築するために。  
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、  
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。  
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、  
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、  
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。  
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。  
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

## 龍谷大学大学院 社会学研究科

新たな知と価値を創造するために、  
「心・知・行動」の拠点として、地域や世界の課題に対峙し、  
問い続ける。それが、龍谷大学の研究のあり方です。

これまでの社会のありようや私たちの行動を省み、  
先端的な研究や学際的連携による知の集約のもと、  
世界の人々と協力して困難な課題に立ち向かう。  
その姿勢と行動が、未来の可能性を切り拓いていきます。

瀬田キャンパス 〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5  
Tel 077-543-7760 shakai@ad.ryukoku.ac.jp

※社会学研究科は、2025年4月に深草キャンパスへ移転します。  
2025年4月からは、深草キャンパスへ通学することになります。



社会学研究科の HP はコチラから

<https://www.soc.ryukoku.ac.jp/daigakuin>

### ■ 入試について

「2024 年度 入学試験要項」をご確認ください。  
また、入試結果については入試情報サイトに掲載しております。  
<https://www.ryukoku.ac.jp/admission/index.php>

### ■ 学費・諸会費について

2024 年度学費・諸会費については、「2024 年度入学試験要項」をご参照ください。

社会学研究科では年に数回、入試説明会を開催しております。  
詳しい日程については社会学部教務課へお問い合わせください。

※掲載の学年、所属は取材時のものです。

2023年6月発行

